

令和3年度デザインシンポジウム あきたのものづくりと デザイン2021



2021年12月16日、あきた企業活性化センターは、県との共催で令和3年度デザインシンポジウム「あきたのものづくりとデザイン2021」を開催した。秋田市文化創造館を会場とし、オンライン受講と会場受講の同時開催で、県内のものづくりに関わる事業者や支援機関等が参加した。

TIMELESS

プランナー
デザインディレクター
永田 宙郷氏
ながた おきさと



伝統工芸や地域産業など様々な分野の事業策定や商品企画を手掛ける。2012年より「ててて商談会」を共同主宰し、作り手、伝え手、使い手のマッチング機会づくりを行う。

株式会社
ユーイーアイ

代表取締役
加藤 淳弥氏
かとう じゅんや



1998年設立の大仙市の製靴メーカー。Unique(=ここにしかなく)、Essential(=本当に必要としてもらえ)、Irreplaceable(=他に代えることができない)な靴づくりを目指す。

BEAMS JAPAN

ディレクター
バイヤー
鈴木 修司氏
すずき しゅうじ



メンズのドレスクロージング・カジュアルウェアや「フェニカ」、「ピーミング ライフストア」など多くの部署を経験。2016年に「ビームス ジャパン」のディレクターに就任。

第1部では、株式会社ユーイーアイ代表取締役の加藤淳弥氏とTIMELESSプランナー・デザインディレクターの永田宙郷氏が登壇。「初めてづくしの商品開発」と題し、ユーイーアイ初の試みとなった自社商品の開発経緯や販売までの進め方を対談により紹介した。「売上の100%が革靴のOEM生産で経営する中、ビジネスウェアのカジュアル化による受注量の減少や海外製品との価格競争を課題として捉えていた」と加藤氏。主なターゲット層を仕事で多種多様な場に足を運ぶクリエイティブワーカーに設定し、永田氏の協力を得ながらブランディングを進め、高いデザイン性と機能性を備えたオールタイムシューズを完成させた。永田氏は「商品をつくる前段階として、メーカーとしてどうやって生き残るかを考えることが必要。“もの”をつくれる会社から“価値”をつくれる会社になることが大事」と話した。



“ANY TIME AT ALL”をコンセプトとした
自社初のオリジナルライン[SEAM.SHOES]。

第2部は、「地域のいいものほしいもの～繋ぎ手から見たものづくりの魅力～」の演題で、TIMELESSの永田氏とBEAMS JAPANのディレクター・バイヤーである鈴木修司氏が対談を行った。永田氏が進行役となり、BEAMSで日本の文化や歴史に特化したレーベルが立ち上がった経緯や実際に取り扱った地域産品とその魅力などを紹介。鈴木氏は、売れる商品を判断する基準について「ものが世の中に溢れている中、ものを持たたくない人が増えている。背景にあるストーリーを語ることで商品ならば、その歴史や深みが直感的に購入者へ伝わる」とした。さらに「どんなものづくりが地域から生まれてほしいか」という問いに、「東京や海外へ向けてではなく、地域で使っているものを残すものづくりが魅力を生む。その地域ならではのものをアップデートして、大切に使える人へ向けたものづくりをしてほしい」と話した。



参加者の声



有限会社
コーリヤマ
経営企画室
高山 健氏
たかやま けん

当社では、靴の甲部(アッパー)の加工製造を行っております。近年は自社商品の開発販売を試みており、これからのものづくりへのヒントを得たいと考えておりました。第一部のユーイーアイ加藤様のお話では、商品だけではなく付随するサービスを合わせて提供することが、商品の独自性と差別化につながるのだと感じました。第二部では、

BEAMS JAPAN鈴木様の「自分が良いと感じた商品の販売方法や広告の仕方を変えることで、消費者が“ほしいもの”に変わっていく」とのお話から、“いいもの”をつくることは大前提として、売り方や魅せ方を工夫することが重要だと感じました。今後の商品開発では商品そのものだけでなく、商品に関わること全てに目を向けたいと思います。